

編集後記

五月八日の総会は会員皆様のご協力で盛会のうちに終了でき、心から感謝致しております。

創刊号発刊以来三十年目を迎えた五十八年度第一回配本一〇号は、日本の「大分県地方史」への飛躍を祈願する意味から、新進研究者山本香代女史の論説を巻頭に掲載させていただいた。奥平氏の中津入部後の城下町商業保護政策の展開と、次第に機能しなくなっていく過程を各種商業を通じて明らかにした労作で、今後の研究活動を期待したい。野田氏の論説は、本県民会運動の出発点を豊前で確認し、初期県議会の中でも民の側からの地方自治論が展開されていたことを実証した価値あるものである。

研究ノートには、久住町内畑遺跡出土土器から、縄文時代から弥生時代へと移行する中での遺跡の増減という諸原因の解明を試みたもので、小論ではあるが問題提起という点から注目される。末広氏の史料紹介は、あまり研究者が注目しない県報登載史料で、近代研究の基本史料の認識を喚起するものであろう。

(橋本)

昭和五十八年六月十五日 印刷
昭和五十八年六月二十日 発行

大分県地方史 第一一〇号

編集者 橋本 操 六

発行者 渡辺 澄夫

印刷者 中尾 寿孝

別府市中央町九一五

印刷所 日の丸印刷株式会社

(電話 220341)

発行所

〒八七〇一一 大分市旦ノ原七〇〇

大分大学教育学部国史研究室内

大分県地方史研究会

(振替・下関五二九四番)